蛍米

新潟県関川村立関川中学校
二年　荒木　桜輔

川のせせらぎ、風の音、僕の住む村は蛍が生息している自然豊かな村です。僕にとって忘れられない味は祖父母が作ったお米と野菜の味です。祖父母が愛情を込めて作ったお米は、一粒一粒がぴかぴかと輝き、かむほどに優しい甘みを感じます。毎日、何気なくご飯を食べていたのですが、スーパーで買った弁当のご飯を食べたときに、いつも食べているお米がおいしいことに気付きました。それからは、最後の一粒まで感謝の気持ちを忘れずに食べるようになりました。

無農薬で栽培している野菜の味も忘れられません。トマトやキュウリ、トウモロコシを畑の真ん中でガブリと食べることができます。小さい頃、祖母に付いて畑に出掛け、かぶりついたトマトの味は格別でした。瑞々しいトマトを口いっぱいに含むと、さわやかな甘さ

と酸味で口の中が満たされます。自然の恵みを味わうことで、村の素晴らしさに気付き、ここで生活することを誇りに思いました。

今年の夏に、関川村を会場として全国ホタル研究会が行われました。僕は中学生代表として研究を発表しました。関川村の初夏、田んぼでは蛍が見られます。でも、その蛍も昔に比べて減ってきています。特に、田んぼを住処にしているヘイケボタルは農薬の影響で数を減らしています。祖父母の田んぼでは、なるべく農薬を使わずにお米をつくっています。おいしいお米作りは、蛍などの生き物が住みやすい環境づくりにつながっているのだと思います。

このおいしくて安全な関川村のお米を全国の人にも食べてもらうために「蛍米（舞）」と名付け、販売していきたいです。水がきれいなところにはおいしいお米の粒と蛍が光っています。僕の好きな味、ふるさとに誇りをもてる味をいつまでも守っていきたいです。